

会 議 報 告 書

- 【会 議 名】 令和6年度 第2回 三朝町部活動地域移行検討委員会
【日 時】 令和6年8月1日（木）午後7時から午後8時10分まで
【場 所】 役場第2会議室
【出 席 者】 （1）検討委員 8名（1名欠席）
 （2）事務局 4名

【報告事項】

- 1 スポーツ・文化芸術団体へのアンケート調査結果について（報告）
 - ・事務局から資料1のとおり説明
 - ・特に意見無し

- 2 鳥取県主催：部活動改革に係る意見交換会（中部地区）について（報告）
 - ・事務局から資料2のとおり説明
 - ・主な意見
 - > 倉吉市の地域移行に関する取り組み状況は？部活動地域移行は三朝町だけで全てはできない。いずれは倉吉市と一緒にあって、この地域移行を進めていかなければならないのではないかと思う。
 - > 他の市町は外部指導者や部活動指導員の配置をとりあえずの目標としているようだが、本町に置き換えると現実的ではないという印象を受けた。本町にとっては部活動とは別の地域活動機会創出の方が、現実性があると感じた。
 - > 鳥取県から何か新しい方向性のようなものは示されていないか？
→特にない

- 3 令和7年度（以降）に向けての本町の取組（案）について（協議）
 - ・事務局から資料3のとおり説明
 - ・事務局案1～3を本町の取組として、本会で検討していくことが承認された。
 - ・今後の検討委員会では、特に事務局案1～2について具体的に協議することが確認された。
 - >事務局案1「中学生の地域活動参加機会の創出」
 - >事務局案2「スポーツ少年団の中学生加入」
 - ※次回検討委員会までに、具体的な事務局案を作成し協議を進める。

令和6年度 第2回 三朝町部活動地域移行検討委員会議事録(概要)

1 スポーツ・文化芸術団体へのアンケート調査結果について（報告）

委員長：文化芸術団体からの回答は少なかった？

事務局：スポーツ団体と比べると文化芸術団体の回答が少なかった印象。

委員長：（文化芸術団体に対しては）どれくらいの団体にアンケートを依頼したか？

事務局：三朝町文化団体連絡協議会加盟の18サークル。

2 鳥取県主催：部活動改革に係る意見交換会（中部地区）について（報告）

委員長：近隣市町では、地域移行について現時点で全く考えてないという状況？

事務局：考えていないというよりは、その手法をまだ模索中であるというような印象。

委員長：（部活動地域移行は）人数的なことや部活動の数を考えると、三朝町だけで全てはできない。いずれは近隣市町と一緒に、この地域移行を進めていかなければならないのではないかと思う。

事務局：（県体育保健課は）基本的な考え方を転換することもひとつの手かなっていうことを言っておられた。他の市町は外部指導者や部活動指導員の配置をとりあえずの目標にしているようだが、本町にとっては現実的ではないという印象を受けた。

それならば前回の検討委員会で出された三朝町の案（部活動とは別の地域活動機会創出）の方が進める方向性として現実性があるという印象を受けた。

委員長：鳥取県の何か新しい方向性のような話は出ていたか？

事務局：この意見交換会の中では、新たな県の方向性は示されていない。

意見交換で各市町から聞いた意見などを取りまとめて、県内で情報を共有するという趣旨と受けとめた。

3 令和7年度（以降）に向けての本町の取組（案）について（協議）

事務局：案1「中学生の地域活動参加機会の創出」

前回の検討委員会で挙げた意見…「休日の部活動を行わない日を設けてはどうか。部活動から切り離して活動するという考え方もあるのではないか。」から着想。

月に1～2回の土曜日を部活動完全休養日として設定し、この日は部活動とは別に、ボランティア活動や地域の協力による体験活動の場として中学生に場を提供するという案。

委員長：月に1～2回完全休業日にするという設定をするとして、いろんな地域行事は年間計画で開催日が決まっている。そうすると、他のボランティア事業やスポーツ体験を同じ日に合わせるとしたら、その調整が難しいのでは。

また、部活動の事情によって、一斉に部活動休業日を定めること自体が難しいかもしれない。

ならば部活動と地域活動のどちらでも、生徒が参加したいものを選んでもらう方法も考えられる。

委員：私は、この案は大いに賛成。別に通年でなくてもその都度できることから始めてはどうか。

休日の部活動についても、顧問自身が、休業日でも部活動を指導したいということであれば、別にやっても良いのではないかと思う。

どれだけ参加する生徒がいるかは分からないが、方向性としては一番いいなど、取り組みが一番しやすいのではないかと思う。

委員：地域に暮らしていてもなかなか地域のことを十分理解していない子ども達がたくさんいる。そのような中で体験活動が少ないので、こういった場で地域活動をすることで、本人たちの気づきにもなると思う。本案に賛成。

事務局：案2「スポーツ少年団の中学生加入」

アンケート結果から着想。「条件によっては中学生の受け入れが可能」という意見から、正式にスポーツ少年団の各単位団に中学生の受け入れ可否について照会し、「受け入れ可」と回答があった単位団から徐々に協議を進めるという案。

委員長：野球では中学校とスポ少で指導されている方が同じ方なので、十分可能性はあると思う。

事務局：できる競技は進めていくということでもいいと思う。他の市町でも特定の競技に絞った形で休日の移行をまずは進めている。

委員長：スポ少でしていた競技が中学校にその部活がない場合、中学生になってもその競技を続けてやりたいという子がいればその子にとって良いこと。

事務局：もう1つ言うと、スポ少の競技と別に中学生の基礎体力を上げるような…ジュニアアスリートでもプログラムでやっているが、競技力を上げるような筋力トレーニングとかそういうのもあったらおもしろい。

委員長：スポ少におけるアンケートの回答者はどのような立場の方か。

事務局：無記名アンケートなので正確には分からない。なおスポ少についてアンケートを依頼したのは、各単位団の保護者代表である育成会長と指導者代表。

委員長：指導者代表に依頼し、単位団の中で皆さんの意見を集められているのであれば、総意だというのは分かるが、懸念するのは御一人だけで回答されて、他の人はそうでもないということがあったとき。

事務局：この案は、正式にスポ少各単位団に照会するという意図。したがってアンケート結果から受け入れが想定される競技に対して決め打ちで協議を始めるということではなく、全ての単位団に中学生と活動することについて正式に依頼文で照会し、そこで「受け入れ可能」と回答いただいた単位団から交渉をどんどん始めていくようなイメージ。

委員：そもそもスポ少自体、中学生も加入できる。現に私が指導しているスポ少単位団でも、小学校卒業して中学校入ったけども、スポ少に継続して入ってくれるという子もいた。

ある程度、指導者の数がある、保護者がたくさんいるなら、受け入れの検討に対する交渉や相談を始めてみても良いのではないか。

小規模な単位団で中学生の人数が一気に増えた場合、均等に対応できるかどうかは言いにくいですが、そういう小さいところでも1～2人とかからスタートして行って、このぐらいだったら受け入れできそうだなという、大まかな目途は付けられるのではないか。

そこから、例えば隔週だったらできますよという目途を少しずつ付けていって、これ以降に向かっての道筋は付けられるのではないかと思います。

委員：バレーの場合は、小学校と中学校でネットとボールに違いがある。指導者とも話をしたが、一緒に活動することは難しいということだった。

個人競技など受け入れるところがあるなら、進めていってもらった方が良いのではないかと思います。

委員：指導体制がしっかりしていれば、一貫した育成期間が長いのでいい選手が育つと思うが、ずれた指導方針だと小学生と中学生でずれた方向性に育ってしまう場合があるかもしれない。

サッカーのクラブチームでは小学生から基礎を習って、中学生で応用…ステップアップするような練習体制が整っていればいいが、それがずれた状態だと反比例した動きになってしまう。

でも、出来るところから…野球みたいに指導方針が揃っていればいい方向に行くのではないかと思います。

事務局：案3「部活動指導員、外部指導者の登用拡充」

県主催の意見交換会で、中部地区の3町が当面の目標として掲げられた「全ての部活動における部活動指導員、外部指導員の登用」を参考に、本町の取り組みを検討する案。

委員長：拡充できるならそうしてもらいたいが…それに適した方がいらっしゃれば。

事務局：部活動指導員は教員の負担軽減というのが大きなねらいなので、人数が増えれば理想だが、その場合先生方は指導員に任せるといような気持ちでいてくださる必要もある。

そもそも人材の確保が一番の課題。人がいれば当たってみることはできると思うが、働きながら指導員等を受けていただくということになると、休日からは言え容易ではない。

委員：部活動指導員は中学校で何人も活躍いただいているが、職員の負担軽減という点で非常に大きな力になっていただいている。

これは、教職員の動きを見てもとても感じるところで、できる限りそういった人材を登用していただくことは進めていただきたいと願います。

事務局：事務局案1から3について皆さんのご意見を伺ったが、協議結果の整理の仕方について、この検討委員会においては、事務局案1番と2番について重点的に今後検討をしていただき、3番については部活動指導員、外部指導者登用はこれまでも推進してきているのでこれも同時に進めて、とりあえず1番と2番の新たな取り組み案について、第3回以降の検討委員会で皆さんのご意見をいただきながら協議を進めていく方針を提案させていただきますがいかがか？

委員：事務局から提案があったことについて賛成。

提案だが。次回の検討委員会は、例えば事務局案1の「中学生の地域活動参加機会」の場に行って、それを視察した直後に開催するという方法はできないか。

会議室で協議するよりも、実際の様子を見た方が協議しやすいというか、三朝中の生徒が地域活動に参加しているのを見て話し合うと、まだ考えやすいのではないかと思います。

事務局：事務局が挙げた活動例は、こういう形にしたらどうだろうかという、まだ実際に動いていないものであるということが前提。

については、もし中学生参加するようなボランティア活動の機会があった場合に、同日に会議をするというのではなく、中学生が活動する機会があることを皆さんにも情報提供させていただき、時間がある方はそれを視察いただいてイメージを膨らましていただくという形はどうか。

委員からは実際に活動を見た方がイメージしやすいというご提案だと受け止めたので、どのような形がいいのか事務局で検討させていただきたい。(委員、了承)

委員長：そういう機会を設けていただくということも前向きに検討いただくと。

それでは、事務局案1～2番をこの検討委員会として、積極的に検討するという方向性でいくということで、皆さんよろしいですか。(出席委員、賛成)